



令和4年5月6日

佐々木研究所・附属杏雲堂病院

精密なゲノム医療実現を目指す病理製品の開発

～個別化医療を行うための遺伝子検査を支える詳細なプロトコール～

佐々木研究所附属杏雲堂病院では、岩屋啓一病理部長らの病理検査グループが、中岡博史腫瘍ゲノム研究部長の協力をえて、ゲノム医療を支えるホルマリン固定パラフィン包埋ブロックの新たなコンタミネーション防止対策の開発に成功しました。

ゲノム医療は、今まで診断や治療方法がなかった難病、あるいは難治癌に対応した遺伝子異常を見つけ出し、ひとりひとりの患者さんに見合った最適な治療法を選択します。病理検査室は、患者さんから採取した組織を、従来の検査業務に加えて遺伝子検査に用いるための厳密な加工を行います。従来の病理検査室の加工工程では、微量の核酸が混入することにより、遺伝子診断の精度に大きな影響を及ぼしかねません。その結果、患者さんはゲノム医療を受けられない場合があり、患者さんの経済的損失は十数万円、社会全体では年間少なく見積もっても数億円と試算されます。本研究では、遺伝子診断に繋がる病理作業工程において、特殊なポケットを使用することにより、ひとつの解決法を見出しました。

本開発・研究成果に関する論文は、米国科学誌「**PLOS ONE**」に掲載され、多くの方が共有できる独立した DOI を有したプロトコールとともにオンライン版で公開されました。（2022年5月5日4時（日本時間））

つきましては、是非とも取材くださいますようお願いいたします。

記

DOI : [10.1371/journal.pone.0266947](https://doi.org/10.1371/journal.pone.0266947)

（プロトコール DOI : [dx.doi.org/10.17504/protocols.io.b2fyqbpw](https://doi.org/10.17504/protocols.io.b2fyqbpw)）

題名 : A sheet to prevent cross-contamination of formalin-fixed paraffin-embedded block for application in next generation sequencing

（和訳）次世代シーケンスに供するホルマリン固定パラフィン包埋ブロックの新たなコンタミネーション対策

著者 : Keiichi Iwaya, Hisae Arai, Nanao Takatou, Yuka Morita, Rinko Ozeki, Hirofumi Nakaoka, Masaru Sakamoto, Tsutomu Kouno, Masayoshi Soma

責任著者 : 岩屋啓一（佐々木研究所附属杏雲堂病院）

本件に関する問い合わせ先
担当部署 附属杏雲堂病院病理部
担当者名 岩屋 啓一
TEL:03-3292-0552（病理診断科）
Mail:iwaya@po.kyoundo.jp